

2023年
10月

マナ通信



今月のマナ通信は、

◎8月の聖書日課：(ペテロの手紙第2、ミカ書、ヨハネの手紙第1・2・3、
ナホム書、ユダの手紙、ヨハネの黙示録)

◎土・日曜日の学び：(神の子イエス①、アブラハム) の感想です。

12弟子はおおむねエルサレムに留まりユダヤ人に福音を伝え、パウロはアジア(ガラテヤ地方)を伝道旅行し異邦人に福音を伝えました。しかし、パウロがその地で伝道してせっかく立ちあげた教会にユダヤの地方から律法による救いを信じる偽信徒が訪れ、新しく出来た教会に入り込みイエスの十字架の贖いによる救いを否定し、教会の人々を惑わしました。

12使徒はイエス様の弟子として共に生活し、最後の晩餐では足を洗ってもらい、イエス様の死も埋葬も、復活も体験しています。そして、復活のイエス様から旧約聖書を通して救いの教えを自分の耳で聞いていました。体験済みです。

しかし、パウロはタルソ生まれで受肉されたイエス様に直に会ったことはありません。しかし、イエス様は幻を通してパウロに現れ、啓示をお与えになりました。パウロは神の啓示によって福音を宣べ伝えたのです。

ガラテヤ人への手紙によると、その為、パウロはバルナバと一緒にテトスも連れて、エルサレムに上りました。自分の伝えている福音が、12弟子たちの理解と同じかどうか照合しています。

この時代は福音が広まるに連れ、それに対する反対意見が横行し、教会を悩ませました。グノーシス思想は、霊だけを正しいものとし、肉体を悪とした教えで救いの喜びを奪い去るものでした。

イエス様の十字架の贖いにより、今までの律法によるシナイ契約から一変し、我々の置かれた立場が全面的に変わりました。イエス様は我々の罪の身代わりとなって死んで下さったのです。人間となられ受肉したそのからだに我々人間の罪を一身に背負い律法の罪の罰を受けて死んで下さったのです。

それは、律法の要求を完全に満たし満足するものでした。その上、神は義であることを証明しました。カルバリのあの十字架の上では律法に関することが行われていたのです。そして、その時我々も一緒に死んだのです。イエス様と一緒に!

しかし、父なる神は神が造られた律法の要求を十字架上で果たし、神は義であり罪を罰することを証明した御子イエスを死に値しないと死から復活へと導き入れました。ありがたいことに、その時我々一人一人もイエス様と共に生き返り、罪のある以前の自分ではなく、イエス様の御霊を頂き生まれ変わったのです。以前と違う立場に立たせて下さったのです。そのため、神の子とされ、国籍も天国に変わりました。神の子とされた私たちには特権が与えられています。それはキリストの義と聖と贖いが私たちのものとして与えられています。キリストにあって私たちはすべて完全なのです。神の子とされた目的は神のために実を結ぶことです。どのような実を結ぶのでしょうか。それは 聖霊が結ばせて下さる「愛」です。

「長老から、選ばれた婦人とその子どもたちへ。私はあなたがたを本当に愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々はみな、愛しています。 真理は私たちのうちにとどまり、いつまでも私たちとともにあるからです。 父なる神と、その御父の子イエス・キリストから、恵みとあわれみと平安が、真理と愛のうちに、私たちとともにありますように。 御父から私たちが受けた命令のとおり、真理のうちに歩んでいる人たちが、あなたの子どもたちの中にいるのを知って、私は大いに喜んでます。 そこで婦人よ、今あなたにお願いします。それは、新しい命令としてあなたに書くのではなく、私たちが初めから持っていた命令です。 私たちは互いに愛し合いましょ。 私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちに歩むこと、それが命令です。」(Ⅱヨハネ1-6)



解説では、真理はイエス様そのもの、またそこから広がりを持ち、イエス様のみことばを意味していると教えています。真理がそのうちに宿り、いつまでも共にあるのは、教会の他にはありません。さらに教会には真理を土台とする相互愛もあります。

ヨハネとパウロの云っている事は同じです。我々は一度死に、そして神の家族として生まれ変わった者です。教会はその生まれ変わった人々の集まりです。教会員は家族であるがゆえに神の愛のうちに喜びを持って生活できるのです。神を愛し、お互いに愛し合います。聖霊様がそうさせて下さいます。(畑中伸之)

2これらのことを書き送るのは、私たちの喜びが満ちあふれるためです。」(Ⅰヨハネ1:4)

〈みことばを味わおう〉から教えられました。

ヨハネの手紙第1は「私たちの喜びが満ちあふれるために」書き送られました。「喜び」は本書の大切なテーマです。また「ヨハネ福音書の“続編”」と呼ばれます。そしてこの手紙は「喜びへの招待状」といってもよいでしょう、と。

神様は、罪と悲惨の中にある私たちにも「喜びへの招待状」を送って下さっています。私たちが招待されている喜びとは、どのようなものでしょうか、私たちの経験する喜びとは、どのようなものでしょうか、と。

私たちの経験する喜びは大きく二つに分けると、一つは病気の回復、子供の成長、仕事の成功、志望校合格などで神様は、私たちの人生にさまざまな喜びを備えてくださるお方です。

もう一つは、苦難の中でも、神様との交わりから覚える喜びです。「イエス様の十字架の血潮による罪の赦し、罪からのきよめ、信仰の成長など」即席の喜びではなく、心の奥底からこみ上げてくる喜びです、と教えていただきました。

このたび、勲兄弟が短大に勤めていた時の教え子(学生の時、福音を伝えた婦人/50代)が、交通事故に遭って大けがをして入院中です、とメールがありました。

勲兄弟は“事故や病気になることは決して不幸なことではありません。謙虚にされ、本当の幸せな生活を送れるようになれると考えています”とのメールに、“明るく前に向かってリハビリを頑張ります。感謝します。”と言ってこられました。

「苦しみにあったことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。」(詩篇119:7)

1) 私も日々そのような証しを持ちたいと願わされました。(福島三弥子)



3「喜びへの招待状」は、あなたが応答してこそ、あなたの内で喜びとなるのです。(46頁)

念願が叶ったり、欲しかった物が手に入ったり、試験に合格したりの喜びは誰でも自然に湧き上がる喜びです。でも一時的です。

ヨハネの指し示す喜びは具体的な出来事に対する喜びではなくて、“自分自身のことで覚えることのできる喜び”ですと、あります。静かな喜びといえるかもしれません。

人から見たらそんなことと一笑に付されそうなことでも喜んでいられるのは、そこに主の愛と恵みを、感じられる信仰があるからです。とても喜び状況とは思えなくても、そこには必ず主の恵みがあるので、応答できる信仰を持っていたいと願います。

夏休みのある主日、用事で礼拝を休み、電車に乗っていました。日曜日の午前中に電車に乗る事などないので、お出かけする若者や家族連れの楽しそうな姿を眺めておりました。

改めて、毎週主日に礼拝できることに喜びを見いだせるのは、本当に永遠の命を与えられたからだ、救われていることに感謝でした。自分の願いとは違う状況でも、どんな時でも、喜びを見いだせるように、応答できる自分になりたいものです。(広瀬裕子)



私のすべての罪を、イエス様ご自身が負って死んでくださいました。そのおかげで、私の罪は赦され、義とされました。それだけでも驚くべきこと、感謝なことなのに、それだけでなく、なんと、私がキリストの妻だということです。それにしても、自分の実際の状態を見れば、新しい夫とは雲泥の差です。

それらについて思いまどっていたある時、ふっと沸いてきたのです。

“罪人を招くために人となられ、死なれたお方は、罪を赦した者を義とし、ご自身の妻とされる。ということは、夫にふさわしいほどに聖になったら妻にしてくださいというよりも、妻にしてから、ふさわしくなるように「思いを与え、実現に至らせてくださる」(ピリ2:13) なのでしょう。妻としてくださった主の愛に答えて少しでもふさわしくなるならば、主は喜ぶのではないですか”と。

聖書には「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた……のは、……教会をきよめて聖なるものとするためであり」(エペ5:25,26)とも、「あなた方の内に良い働きをはじめられた方は、キリスト・イエスの日までに完成させてくださる」(ピリ1:3)とも言われますから、キリストにふさわしくされる希望と確信を持って歩んで行けそうな気がしてきました。(高橋美枝)

さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人があった。ユダヤ人の議員であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」(ヨハネ3:1-5)

老境に入った人の思いや感覚は、自分がその年齢にならないとわからないものです。肉体的な衰えや記憶力の減退もあるでしょうし、長い人生を生き、その中で重ねてきた悔いの感情もあります。自分が若い時は、老人はなぜこのように行動するのだろう、なぜこう語るのかと不思議に思ったりしました。しかし、自分もその年齢に近づくにつれ、なるほどそうだったのか、と肌身に染みて感じ、わかってきました。最近、特に物忘れがひどくなりました。

ニコデモという老人がいました。ニコデモは、イエスに言いました。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」

ニコデモ自身が自分が自分の老いを自覚する年齢だったのかと推測されます。人は年老いて新しく生まれ直すことなど出来ません。

イエスは答えられました。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」

ここでの「水」は、後のキリスト教会が行うようにと命じられたバプテスマを指すと考えるよりは「水と御霊によって」の背景にあるのはエゼキエル書36章25-27節にあると考えたほうがよいようです。

そこでは、神ご自身が「きよい水をあなたがたの上に振りかけ……あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。……わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」と約束しておられます。

主イエスが別の機会に、「人にはできないことですが、神にはどんなことでもできます」(マタイ19:26)と語っておられるように、新しく生まれることは、人にできることではなく、神ご自身がその力によって可能にしてくださいることなのです。

私は、いつも礼拝の際、老境に入ってしまった兄弟姉妹と互いに気づかいの心を感じます。しっかりと、主が見守っていて下さると思うと感謝しかありません。(木村邦夫)

しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。(ユダ20節)

私は2月に職場の引越し、3月に家の引越しをしました。子どもたち2人もちょうど小学校・中学校を卒業し、それぞれ中学・高校へと入学しました。一斉に拠点が変わりました。子どもたちは若さゆえの柔軟性・体力で元気にやっているのですが、私は案の定、疲れからか風邪をきっかけに咳が長引いて体調万全とは言えません。元気な時は強気な考えなのですが、体が弱ってくると考えも後ろ向きになります。

ご高齢の兄弟姉妹がますます主により頼んで信仰生活を送っておられることに頭が下がります。私には、自分の身体や精神状態を基盤にする危うさがあります。

しかし御言葉によれば、「自分たちの最も聖なる信仰の上に」です。当時、偽教師に悩まされていたキリスト者は自分たちの信仰を土台として立ちなさいと励ましを受けました。体調ももちろん大切ですが、信仰の土台をしっかりとりたいものです。(永井亮子)



わたちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Iヨハネ4:10)

今年、群馬県高崎市では、気温が40℃以上になった日が、何日もありました。熱中症にならずに済んだのが、不思議なくらいです。こんなに暑い環境は、生まれて初めてのようです。今日の日も、このみことばが身に染み入ります。(外處トミ)

灼熱の 夏の日々をも 主は我に 共に寄り添い 見守り給う

2023年8月31日

わたちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して下さって、私たちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」(Iヨハネ4:10)

私たちが救われたのはわたしたちの行いや選択によるのではなく、ただ神様が私たちを愛してくださったからであることを覚え、感謝します。

いつも御心にかなう歩みをすることができますように。(外處光歩)

しかし、だれでも神のことばを守っているなら、その人のうちには神の愛が確かに全うされているのです。それによって、自分が神のうちにいることが分かります。神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません。」(Ⅰヨハネ2:5-6)

日々、神様の御手の中で歩めることを感謝します。一步ずつ、イエス様の御姿に似た者へ造り変えられますように。いつも祈り、すべてを主にゆだねて毎日を過ごしていけたら幸いです。(外處結実)

私たちが御父の命令にしたがって歩むこと、それが愛です。あなたがたが初めから聞いているように、愛のうちを歩むこと、それが命令です。」(Ⅱヨハネ6節)

この世での愛は好きか嫌いかに基づくことが多いですが、神様の言われる愛は次元が全く異なります。自我を放棄して完全な導きを与えることができる唯一のお方である神様の御心に従うことが真理であり愛なることなのです。

つまり、間違った好意に基づく人間の愛は自己中心であり、自己愛を含んでいるためいつも正しいとは言えないのです。絶対なる聖なるお方に深い信頼をもって、何が与えられても自分のためであることを確信して信頼を持って唯一の神様に従うことだけが本当の愛なのです。

その神様のご命令であるキリスト者同志が愛し合うとは神様の御心を聞いてそれに従うことなのだと思います。

アブラハムは息子のイサクが好きでしたが、神様の愛を優先して捧げることにしました。それが信仰なのです。信仰は神様の愛に従うことだと思います。私たちの救い主なる御子イエス様も御父なる神様の死に至る命令に従って下さり、私たちに救いをもたらして下さいました。

サタンは従うことを放棄して自己愛を優先しました。その結末は永遠の滅びです。御父なる神様に従うことは、唯一の最善の道であることを永遠に示されるのです。

そして、私達にその従う力も与えて下さるのです。私たちは本来何も持っておりません。全て神様からいただいたものです。自分で獲得したものと勘違いしてはならないのです。

全てを与えて下さった神様がこれからの試練の時代でも確実に守り導き続けて下さることに信頼して御愛に従って歩ませていただきたいと思います。(外處徳昭)

私たちをご自身の栄光と栄誉によって召して下さった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。

その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。(Ⅱペテロ1:3-4)

第2ペテロの1章では、どのようにしたら、この世で墮落することなく、天の御国へと全き勝利のうちに凱旋できるかを教えています。

十分な備え

まず言えることは、「私たちが聖い生活を送るために、神は十分な備えをして下さった」ということです。

「神としての御力」は、救われた私たちに、「聖い生活を送るための力」を与えます。その順序は、まず「いのち」、そして「敬虔」です。福音は、感謝なことに、罪に対する刑罰から、そして罪の力から、滅びから、汚れから救う「神の力」です。

「いのちと敬虔をもたらすすべてのもの」には、キリストの大祭司としての働き、聖霊の働き、私たちのための御使いたちの活動、回心したときに私たちが受け取る新しいいのち、そして神のみことばの教えも含まれ

ていると言えるでしょう。

その方を知ることから来る

聖い生活を送るための「力」は、「私たちが…お召しになった方」を「知る」ことから来ます。「主イエスの、神としての御力」が聖さの源であるのと同じように、「その方を知ること」が、その「経路」です。

その方を知ることが永遠のいのちであり(ヨハネ17:3)、「その方をさらに知ること」が、さらに聖められて行くことなのです。私たちは、主を知れば知るほど、さらに主のようになるのです。

尊く大いなる約束

聖い生活を送るために神の御力が与えてくださった「すべてのもの」には、みことばのうちにある神の「尊く大いなる約束」も含まれます。

聖書には、少なくとも3万もの「約束」があるとされています。ジョン・バニヤンはかつて次のように述べました。

「人生という小道には、神の約束が満ちている。そのため、一步を踏み出すたびに、必ず、何らかの約束に出くわすのである」。

この神の「約束」は、ペテロが2通の手紙の中でよく使われている「7つの尊いもの」のうち、最後のものです。

①私たちの信仰は金よりも尊い(Ⅰペテロ1:7)。②キリストの血は尊い(同1:19)。③生ける石であるキリストは、神の目には尊い(同2:4)。④キリストは要石としても尊い(同2:6)。⑤抛り頼んでいる人々全員にとって、キリストは尊いお方です(同2:7)。⑥柔和で穏やかな霊という朽ちることのない飾りこそ、神の御前に非常に尊いものです(同3:4)。⑦神の「約束」は「尊い」ものです(Ⅱペテロ1:4)。

聖い生活に関する「約束」をいくつか思い起こしたい。

- ①罪の支配からの解放(ロマ6:14)。
- ②十分な恵み(Ⅱコリント12:9)。
- ③神の命令に従う力(ピリピ4:13)。
- ④悪魔に対する勝利(ヤコブ4:7)。
- ⑤試練のときの脱出の道(Ⅰコリント10:13)。
- ⑥自分の罪を告白したときにもたらされる赦しと(Ⅰヨハネ1:9)、神がその罪を忘れ去ってくださること(エレミヤ31:34)。
- ⑦私たちが呼び求めると、神がそれに応答してくださること(詩篇50:15)。

神の「約束」は「尊く」「大いなるもの」とペテロが言っているのは当然です。これらの「約束」のおかげで、私たちは「欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ」ることができるのです。

神は、私たちが誘惑に打ち勝つために必要なすべてを約束しておられます。激しい欲望に駆られたときは、これらの約束を求めることができます。

これらの「約束」のおかげで、私たちは、この世の墮落一性的な罪、泥酔、道徳的腐敗、悲惨な有り様、裏切り、争い—を免れることができます。

この「約束」の肯定的な面は、この約束によって、私たちが「神のご性質にあずかる者となる」、ということです。

このことが起こるのは、まず、回心の時です。その後、私たちは、神が「約束」しておられることを実際に味わう生活を送りつつ、神のかたちにますます似てゆくのです。

例えば、神は、「私たちは、主のことを考えれば考えるほど、主のようになる」と約束して下さっています(Ⅱコリント3:18)。

私たちは、みことばを読み、みことばに明らかにされている通りにキリストについて学び、彼に従うことによって、この約束を現実のものとしします。そうするうちに、聖霊は、栄光のある段階から次の段階へと、私たちをキリストに似た者に変えてくださるのです。何と感謝なことでしょう。(福島勲)

貴重なご感想をありがとうございました。

次回はマナ9月号の感想を10月10日までに福島兄弟へお寄せ下さい。(永井)